

西東京市立中学校完全給食について（意見）

平成 27 年 8 月

西東京市立学校給食運営審議会

< 目 次 >

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2	現在実施している中学校給食についての検証・・・・・・・・	3
3	市内全中学の生徒（弁当を選択した生徒も含む）に対し実施したアンケートの集計結果より・・・・・・・・	5
4	まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
◎	付帯意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7

[別添資料]

- ・ 中学校完全給食実施校の生徒（弁当を選択した生徒も含む）に対し実施したアンケートの集計結果
- ・ 給食残菜量調査
- ・ 中学校給食の現況と課題等への各中学からの回答
- ・ 中原小学校及びひばりが丘中学校の建替え案の内容

西東京市立中学校完全給食について（意見）

1 はじめに

西東京市での中学校給食は、平成 23 年 5 月 20 日より第一期整備（3 校）、平成 24 年 5 月 20 日より第二期整備（6 校）において完全給食として開始され、西東京市立全ての中学校で、親子方式による完全給食の実施となった。9 校全てでの実施後、3 年が経過したことを契機として、平成 24 年 3 月にまとめた「西東京市立中学校給食について（意見）」（以下「前回の意見書」という。）を参考にして、改めて全校を対象にした検証を行うこととした。

本審議会は、平成 27 年 1 月 9 日、2 月 16 日、4 月 24 日、5 月 28 日、6 月 25 日、7 月 24 日に審議会を開催して、西東京市立全ての中学校における完全給食の状況を検証し、今後、よりよい中学校完全給食を実施していくための課題等をここに取りまとめた。

なお、今回の課題検討に当たっては、前回の意見書との比較が必要との観点で、前回の意見書の検証項目とほぼ同様の検証を行うものとし、その裏づけとして、平成 27 年 1 月の西東京市立全ての中学校の生徒（弁当を選択した生徒を含む）へのアンケート調査、また、各中学校に対しては、2 月の給食残菜量調査、4 月の中学校給食の現況と課題等の意見聴取とし、その結果を含めて分析した。

2 現在実施している中学校給食についての検証

前回の意見書で検証されている項目について、改めて現状を検証するとともに、今回新たに項目を追加して実施状況や問題点等を確認した。

(1) 実施回数

中学校によって、給食の実施回数に差があるが、諸行事の都合に応じた決定である。引き続き、小学校（親）と中学校（子）で給食実施日について調整の上、実施回数を学校ごとに決定していくことが適当である。

(2) 給食提供の実態

給食の提供については、平成 24 年 3 月時点に引き続き、中学校の昼食時間に合わせた提供ができているが、中学校の学級数の増減と、配送トラックの大きさの都合で、2 往復する学校も出ており、小学校給食の調理に影響が出ないよう配慮が必要である。

使用している食缶については、経年劣化や熱風消毒をする関係で、多少の歪みや変形が認められ、蓋の開閉がしづらくなることもあるようだが、場合によっては新しい物に取り替えながら、生徒への指導を通して、安全性に配慮して使用していくことが望まれる。

調理室等の整備や調理室へのエアコン設置については、夏季の衛生環境及び調理員の作業環境の向上の観点から、今後、学校施設の現状や財政負担等を考慮し、可能な限り改善していくことが望まれる。

(3) 給食の申込方法

事前申込み制は定着していると認められるが、小学校から中学校への進学時に、中学校が事前申込み制であることを理解していない保護者がいるなどの課題がある。小学校側でも6年生の児童及び保護者に説明を行っているが、なお一層の連携が求められる。

また、就学援助の認定と2学期の給食申込時期が重なる点など、今後工夫が必要な点もある。

(4) 家庭弁当希望者への対応

給食開始当初と異なり、全校で家庭弁当持参者も給食当番に参加させていることがわかった。その際、食物アレルギーのある生徒は、アレルギーの原因となる食材が含まれているメニューの時には当番から外すなどの配慮もされていた。今後も、家庭弁当を選択している生徒に対し、細かい配慮が必要である。

(5) 給食費の額

平成26年10月、本審議会の「西東京市立の小学校及び中学校の学校給食における給食費の見直しについて」の答申により、西東京市教育委員会では平成27年4月から中学校給食一食当たり337円と決定し、実施されている。

(6) 徴収方法と還付

徴収方法は学期ごとの前払い制である。1学期の給食申込み時に、就学援助の申請予定者にとって一時的な経済的負担がある等の課題はあるが、給食費の未納が発生しないという利点もあるため、現在の徴収方法を継続することが適当である。また、アレルギーにより飲用牛乳を飲めない生徒への還付については、今後の検討が望まれる。

(7) 昼食時間

生徒から昼食時間が短いという声があるが、中学校の授業時程に影響する事柄なので、やむを得ない側面もある。喫食時間を確保するため、担任だけでなく全教員が給食準備に関わる等の工夫も学校では行われている。今後も効率的な配膳や後片付けの仕方を指導する等、実質的な喫食時間を確保する工夫を継続してほしい。

(8) 栄養士の活動・連携

中学校における食育については、給食だより・献立表・昼食時間の食育指導用印刷物の発行、掲示物の作成・展示、生徒・保護者からの質問等への回答、給食時間の巡回、食育放送の実施、保護者向けの給食試食会の開催、給食委員との連携、ホームページの更新、紙芝居の実施など、様々な方法で工夫し、実施している。小学校の栄養士から情報・資料の提供を受けるなどの親子校間の連携を行っており、今後も積極的な関わりを期待するが、時間の確保等の課題もある。

(9) アレルギーへの対応

中学校への配送はコンテナで行うため、事故防止の観点から小学校とは異なり除

去食の提供は行わず、詳細な献立表による対応をしている。また、食物アレルギーに対する学校での配慮・管理を希望する保護者に対しては、「生活管理指導表（アレルギー疾患用）」の提出を求めている。

今後も、時間割の工夫(喫食直後の体育等)や弁当を持参しやすくするなど、丁寧な説明とともに、細かな配慮を継続してほしい。

(10) 給食配膳方法

配送方法での大きな障害は生じておらず、第一期校での配膳方法により、ほぼ予定どおりに実施されている。

夏季の温度管理や衛生管理などの安全への配慮は、今後も継続してほしい。

(11) 生徒用食器について

スプーンやフォーク、箸などの選択は、二期校から改善されたものの、なお未改善の学校についての見直しが望まれる。現在使用の強化磁器食器は、重ねて食器籠に入れることから、コンテナ運搬中のひび割れを交換しながらの状況のため、今後、強度面からの検討が望まれる。

3 市内全中学校の生徒（弁当を選択した生徒も含む）に対し実施したアンケートの集計結果より

(1) 全体として

市内全中学校の生徒を対象に行ったアンケートで、「給食が始まって良かったですか」との質問に対し、86.8 パーセントの生徒が「良かった」と回答しており、概ね肯定的な評価を得ている。

(2) 給食の時間について

「給食時間の長さはどうですか」の質問に対し、47.1 パーセントの生徒が「短い」と回答している。「ちょうど良い」という回答が 45.6 パーセント、逆に「長い」という回答は 3.2 パーセントであり、短いと感じている生徒が比較的多い。

前述のとおり、中学校の授業時程に影響する事柄なので、やむを得ない側面もあるが、効率的な配膳や後片付けの仕方を指導する等、実質的な喫食時間を確保する工夫を継続してほしい。

(3) 給食の内容について

「給食はおいしいですか」との質問に対し、79.0 パーセントが「おいしい」、「普通」と回答している。給食のおいしさについて、概ね肯定的に評価されているものの、「そうは思わない」という回答が 16.9 パーセントある。「味付けはどうですか」の質問に対し、「ちょうど良い」との回答が 64.7 パーセント、「味付けが薄い」との回答が 20.9 パーセントある。また、献立について、「バランスがとれている」との回答が 79.6 パーセント、「工夫して欲しい」との回答が 14.9 パーセントある。

食塩相当量の過剰摂取防止や、バランスの良い献立づくりを大切にして給食が提

供されており、生徒の嗜好や家庭の味と違うことからくる意見もあると考えられる。中学校側での食育の取組により、多様な食材や栄養バランスを考慮した食事の大切さなどについて、生徒への理解を進めていくことが望まれる。

また、「温度はどうか」の質問に対しては、「適温である」との回答が 74.5 パーセントあり、保温食缶等の使用により温かい給食の提供がされていると認められる。

(4) 給食の量について

「ほとんど残さない」と回答しているのは、主食では 74.4 パーセント、おかず（肉・魚）では 72.0 パーセント、おかず（野菜）では 67.1 パーセント、牛乳では 68.2 パーセントであるが、「残すことが多い」という回答も、主食で 3.9 パーセント、おかず（肉・魚）で 4.1 パーセント、おかず（野菜）で 7.7 パーセント、牛乳で 15.8 パーセントある。

残すことが多い理由では、美味しくないという回答よりも、苦手・嫌いが目立つ。喫食の量は個人差が大きいため、配膳時の量を生徒に合わせて調整する工夫等が望まれる。

4 まとめ

西東京市の中学校給食も全校実施から 3 年が経過した。この間、平成 23 年 1 月に定めた親子調理方式と大きな変更点もなく、既に軌道に乗ったものと判断している。

今回の検証においても、改善を求める声を確認しているものの、喫食率は約 95 パーセントに達し、生徒の満足度も「給食は美味しい・普通」と感じる生徒が、3 年前の調査と同様の結果であり、他の数値を勘案しても、順調に推移しているものと分析できる。

このことは、生徒に安全で美味しく、生徒の心身の成長に役立つ完全給食の実施のために真摯に取り組んできた給食関係者はもとより、親子給食運営協議会等による保護者の協力もあってのものである。

今後も、関係者がそれぞれの立場で課題解決を図り、より円滑な親子給食のために努力することを願いたい。

付 帯 意 見

◎付帯意見に関して

市内中学校での完全給食がスタートして以来の検証を踏まえた意見書の審議を尽くしたところであるが、時期を同じくして教育委員会においてはひばりが丘中学校の建替えの基本設計を策定中であり、新たな校舎での給食のあり方についても、同時に審議を行った。

この審議内容については、中学校完全給食(親子給食方式)に対する意見とは切り離し、別途付記することが適当としたため、追記する。

1 中原小学校の給食に関して

ひばりが丘中学校の建替え計画においては、中学の新校舎が完成後の当初2年間は、近接の中原小学校の仮校舎として利用することが決定しており、その間の給食の提供方法について確認した。

仮校舎での2年間とはいえ、成長期の児童にとっては長期に亘るものと考え、この間を安全で安心、かつ成長に役立つ給食の提供を考えると自校式での提供が至当と考える。

2 ひばりが丘中学校の給食に関して

西東京市においては、平成19年7月の当審議会答申を受け、中学校の完全給食は親子方式で提供されているが、今回新たな校舎に建替えるに当たり、個別の給食提供の方法等に関して確認した。

この間の審議でも、この際建替えを迎える学校だけでも自校式にしてはどうかという意見もあったが、多くの委員からは、自校式が理想であることは認めるが、今後、他校の建替え計画の見通しが立たない中で、この中学だけを自校式にしていくことには、公平性や財政面の観点から慎重を期すという意見が述べられた。

審議会としては、全中学生の教育環境の調整に配慮すべき観点から、全体的な計画のない中での自校式の選択には、他校とのバランスを考慮する必要があるものとする。また、厳しい財政状況等を勘案すれば、1校だけが自校式として先行するよりも、今回の意見書での指摘事項等々を含めての改善を優先すべきであり、コストの面からも優位な現行の親子給食方式を堅持しつつ、他の学校にも予算を配分する努力をすることが、中学校全体の底上げにつながるものとする。

3 まとめ

自校式と親子方式を比較した場合、自校式が生徒にとって優れていることは、審議委

員の誰しものが認めるところではあるが、本市においては、親子給食を選択することで9校が同時期に完全給食をスタートすることができ、僅か3年が経過したばかりのところである。

当審議会としては、親子給食実施校のみならず、小中学校全体の給食に対しての意見を述べる立場にあり、本意見書の「まとめ」にも記載のとおりで、中学校においては今後とも円滑な親子給食が継続されるという考えには変りはない。

したがって、建替え後のひばりが丘中学校においても、住吉小との親子給食が継続されるものと思量するところであるが、今回は、一時的に中原小学校が仮校舎とし利用するということもあり、基本設計での給食室の位置づけに配慮が必要となっている。

さまざまな選択肢からより至当なものを選ぶにせよ、これには市の財政事情が深く関わってくることでもあり、本審議会の考えを汲んだ上で、最終的には市及び教育委員会の適宜な判断を期待するところである。

平成 27 年 8 月 20 日

西東京市立学校給食運営審議会

会 長	有 澤	多津子
副会長	宍 戸	鈴 子
委 員	松 村	一 人
	小野寺	裕 子
	田 中	裕 美
	小谷野	寿 江
	佐 藤	栄 子
	杉 原	明 子
	可 児	裕 美
	森 下	匡 子
	熊 谷	和 子
	久保田	洋 子
	立 川	芙美子
	横 田	智 子
	早 田	佐知子
	新 出	真 理